

救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド普及状況調査結果

調査期間：2022年11月24日～2023年1月31日

調査方法：WEBによるアンケート調査

調査対象：日本クリティカルケア看護学会学会員、日本救急看護学会学会員

I. アンケートの回答者の概要 (n=232)

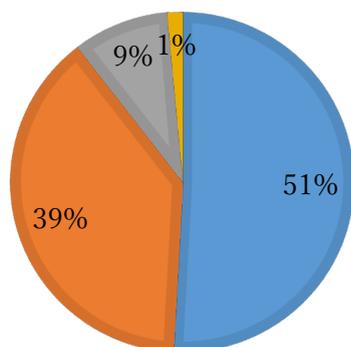
1. 看護師経験年数 平均 19.8 (SD ±8.0) 年

救急・集中ケア領域での経験年数 平均 12.7 (SD ±6.6) 年

主として使用している資格は全員が看護師

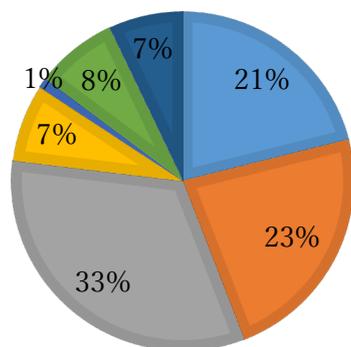
2. 職位

■ スタッフ ■ 看護管理者 ■ 看護系教員 ■ その他



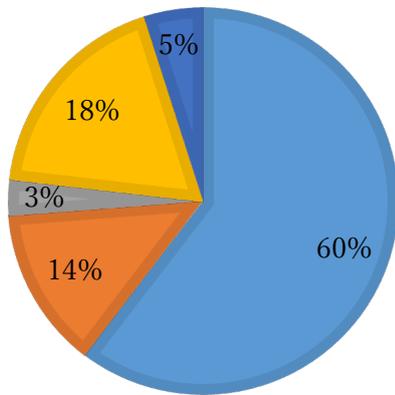
3. 所属部署 (複数回答可)

■ 救命救急センター ■ 集中ケアユニット
■ 救急外来 ■ 一般病棟
■ 訪問看護ステーション ■ 看護大学・専門学校等の看護系教育機関



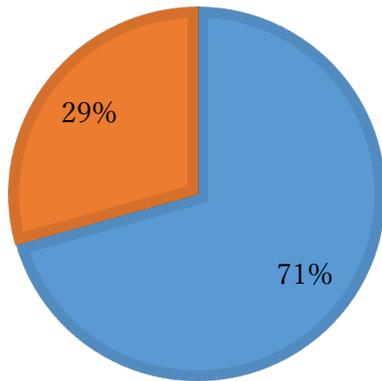
4. 取得している資格（複数回答可）

■ 認定看護師 ■ 専門看護師 ■ 診療看護師 ■ 特定行為研修修了者 ■ その他



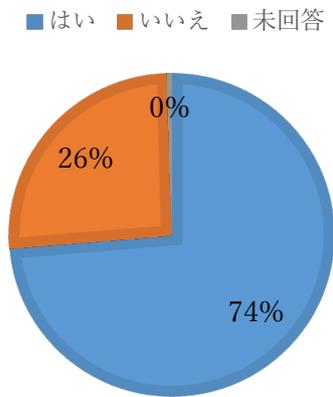
5. 所属している学会（重複あり）

■ 日本救急看護学会 ■ 日本クリティカルケア看護学会

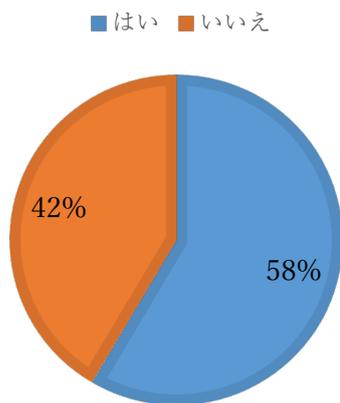


II. 救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド（以下、「プラクティスガイド」とする）に対する調査結果

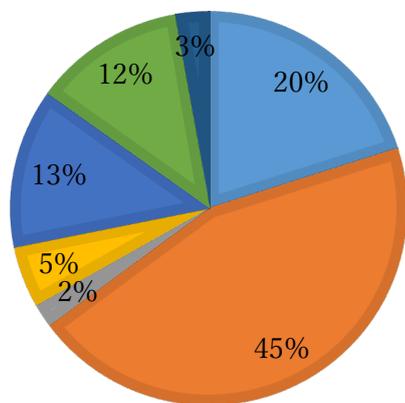
1. プラクティスガイドの存在を知っているか（n=232）



2. 「知っている」と回答した方：両学会のHPで第2部（表）を閲覧できることを知っているか(n=171)



3. プラクティスガイドをどのように知ったか（複数回答可）

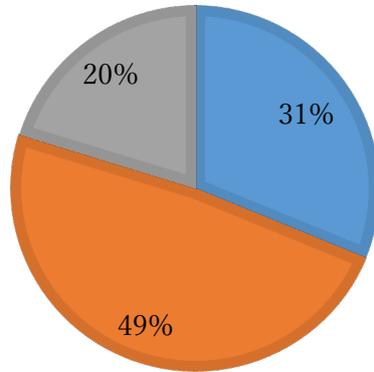


その他：

- ・ 研修参加
- ・ 大学院の講義内
- ・ 認定看護師教育課程の授業
- ・ 文献検索
- ・ 学会からのメール
- ・ 日本看護協会主催の終末期についての講義
- ・ 試験の問題

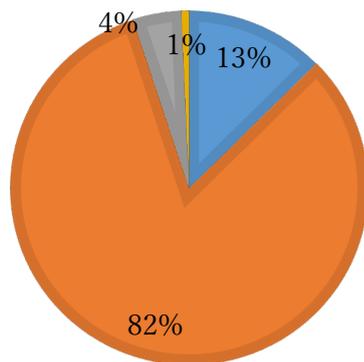
4. プラクティスガイドに目を通したことがあるか (n=173)

- 何度も読んだことがある
- 一度は目を通したことがある
- 存在は知っているが目を通したことはない



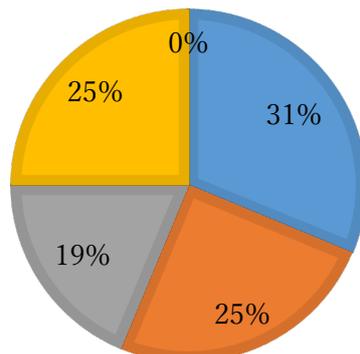
5. プラクティスガイドの内容は理解しやすいか (n=159)

- 非常に理解しやすい
- 理解しやすい
- 理解しにくい
- 非常に理解しにくい

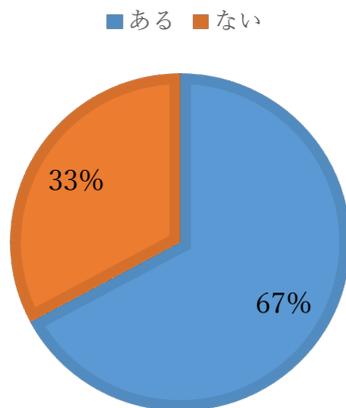


6. プラクティスガイドの内容が「理解しにくい」「非常に理解しにくい」と感じた理由 (複数回答可)

- ガイドの活用方法が分かりづらい
- どの場面で使用するのかが分かりづらい
- 内容が難しい
- 実践に即していない
- 表が見づらい

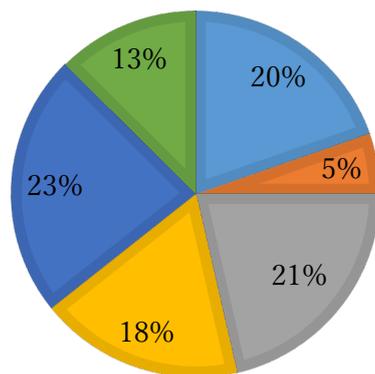


7. プラクティスガイドを実践で活用したり、参考にしたりしたことがあるか (n=137)



8. 「活用したことがない」「使用したことがない」と回答した方：その理由 (複数回答可)

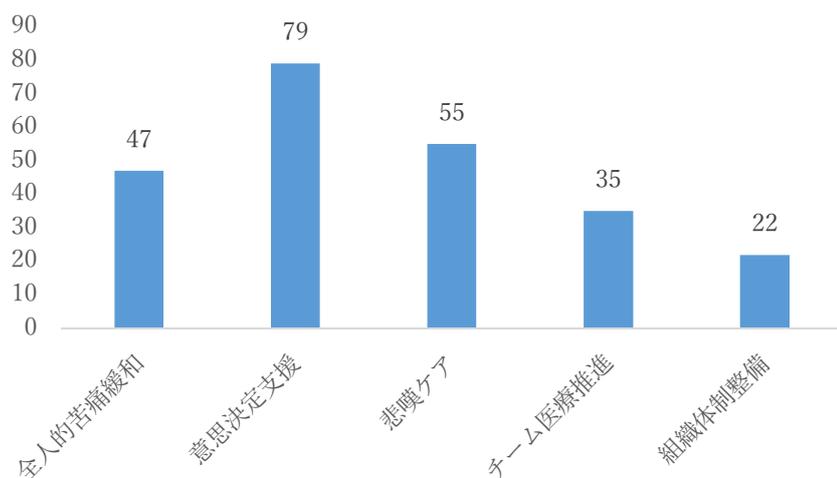
- 使用方法が分からない ■内容が難しい
■対象者がいない ■終末期にかかわることがない
■多職種との共有が難しい ■その他



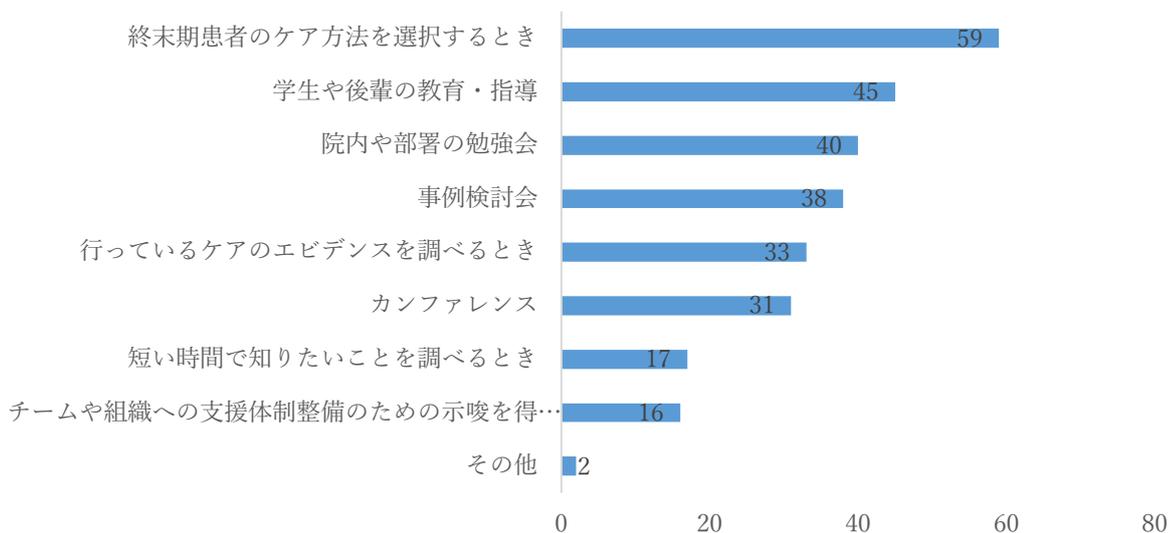
その他：

- ・見ながらやることはない
- ・実際には時間的にもマンパワー的にも難しい
- ・どこかで参考になればと思うが、関わることが少ない
- ・医師がその存在を知らない／遵守する気がないので絵に描いた餅状態のガイドになっている
- ・実践するには内容があいまい
- ・使いづらい
- ・職種異動

9. 「使用・活用したことがある」と回答した方：使用した項目（5つのコア概念）（複数回答可）

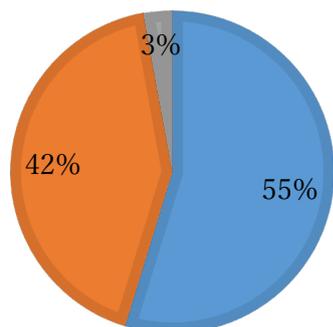


10. プラクティスガイドを活用したり参考にした場面（複数回答可）



11. プラクティスガイドをどのような方法で活用しているか（複数回答可）

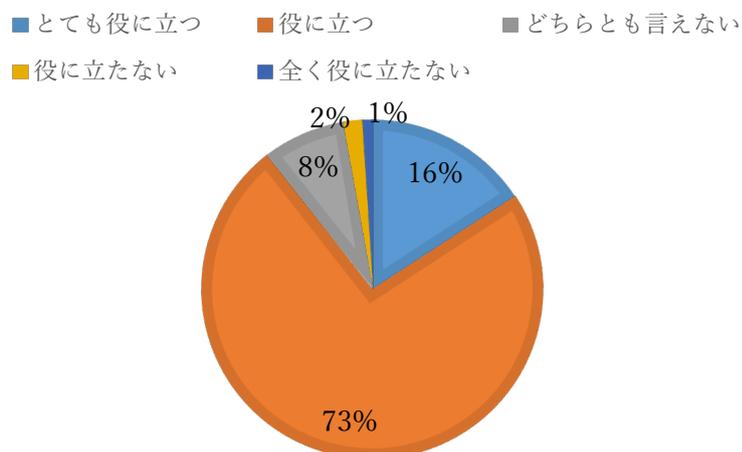
- ホームページで公開されている表を使用している
- 書籍を購入して使用している
- その他



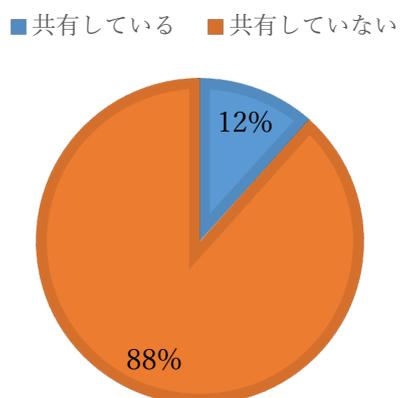
その他：

- ・ 講義で配布された資料を使用
- ・ HP からコピーし、部署内のファイルに托じて誰でも必要な時に参照できるようにしている。
主に事例検討、カンファレンス時に参考文献として活用されていることが多い。

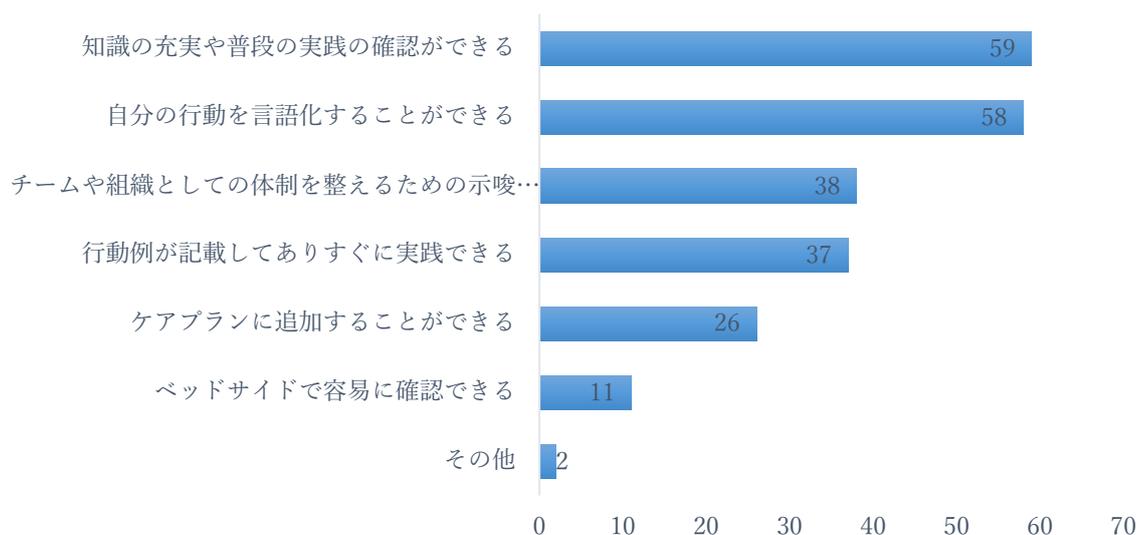
12. プラクティスガイドは実践の役に立つか (n=114)



13. プラクティスガイドを多職種で共有しているか (n=95)

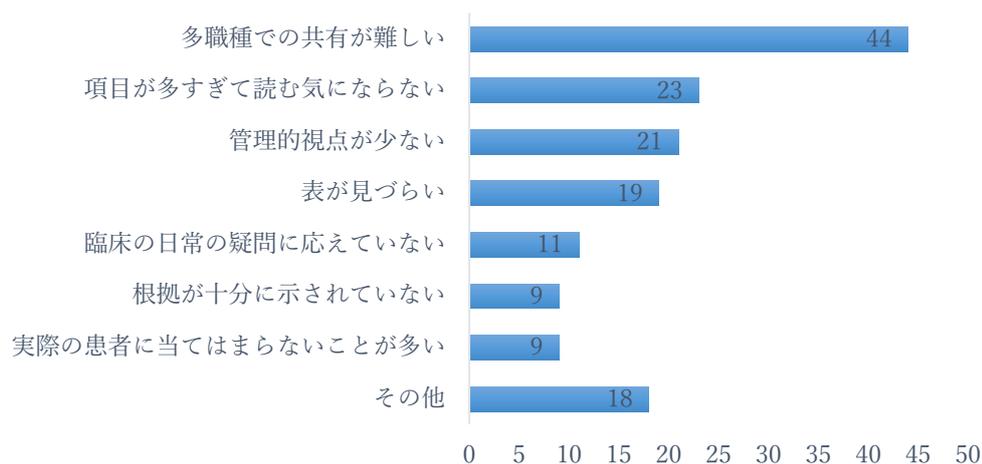


14. プラクティスガイドが臨床場面で役立つ・活用できると思う点（複数回答可）



その他：使いづらい

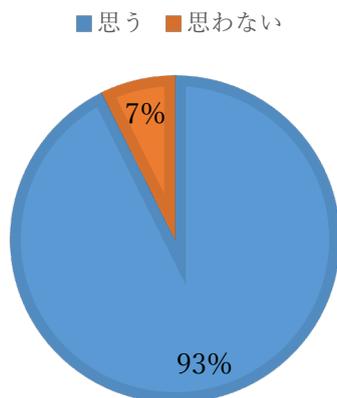
15. プラクティスガイドが臨床場面で「役に立たない」「活用しづらい」と思う点（複数回答可）



その他：

- ・特になし（8件）
- ・行動例の記載はあるが、さらに具体的な説明内容や、言動などの例もあると良い
- ・自施設のハード面が整っておらず、職場での組織体制が難しい
- ・救急×緩和の提唱がされて数年経つが、まず緩和に対する医師の理解や学びがない。
care<cureの現場では難しい
- ・大事な内容であることは理解できるが、実際、実践でどのように活用していけば良いか、活用方法が分かりにくい
- ・学生からも参考になると好評です
- ・存在が十分普及できていないので、共通知識になっていない
- ・医師が存在を知らない・遵守する気がないので活用されていないのが現状だと思います
- ・書籍が大きくて持ち歩きにくい
- ・少し抽象的なところもあるので、実際の看護ケアとしてどうしたらいいか迷うことがあります
- ・曖昧な表現がある

16. プラクティスガイドを他の人にも勧めたいか、またその理由は (n=96)



理由：

- ・日々遭遇するお看取りの場面で最大限の看護ケアを発揮するための指針になるため
- ・共有したいと思うが、なかなかタイミングがなく実践できない
- ・煩雑な業務の中でもとても大切な内容だと思っているので、スタッフに周知したい
- ・家族看護の枠としてではなく、救急と集中に特化し、従事している看護師はわかりやすいと思う
- ・認定学校に通っているときに、参考書としてあったら良かったと思う
- ・知識としては必要、実践は職場の土壌による
- ・スタッフ指導など思考も整理できる
- ・医療チームとしての終末期医療の質を高めるため
- ・経験則や感覚で実践しているスタッフが多いと感じるため
- ・クリティカルケア領域の終末期に関してまとめたものが少ない中で1番分かりやすく参考になる
- ・ケアのコンセンサスを得られやすくなると思うから
- ・スタッフ間で共通認識をする時に活用したい
- ・看護師の同僚には資料がある旨を伝え、知識獲得の支援を行えるが、他職種で他の学会のガイドラインがある場合や院内ルールがある場合には、参考にする程度とする
- ・現場では終末期医療と DNAR オーダーが混在している状況が散見されるため、知識の周知をするためにもガイドラインは必要と思う
- ・救急場面における家族ケアは他病棟では経験したことがない看護師も多いので、異動者への教育にはとても役に立つと思う
- ・新人教育でも、根拠や持つべき視点が学べると思う
- ・終末期は倫理的問題について常に考えて行動する必要がある、皆がその視点を持ち日々の看護に活かしていくための羅針盤・参考になり得る
- ・情報を共有しながら病棟全体で看護観を実践していけると思うため、まだ知らない人へも伝えて行きたい
- ・自己流でケアを行っている人にこそ、共通認識をもってケアを行ってほしいから
- ・日常的に行なっているケアの根拠が言語化されており、具体的な内容が記載されているため、チームとして標準化した看護が提供できると考えているため
- ・医師には浸透しやすいが、栄養士・リハビリ科のスタッフには難しいと意見が出た

17. プラクティスガイドに追加してほしい項目、改善してほしい内容（自由記載）

- ・もっとじっくり読んで学んでいきます。
- ・診療報酬の対象にもなった入院時重症患者メディエーターの情報があると嬉しい
- ・オンラインでいいので もっと勉強会があったら参加したいです。カンファレンスの持ち方や悩みなど勉強になりました。
- ・救急看護学会以外へのアナウンスを行い、他領域への理解を広げる
- ・自部署の方に学んでほしいので、経験年数の少ないスタッフにも理解しやすい事例や文章が多いと良いかなあと思いました。（書籍から実際の患者へつなげるチカラがないため）
- ・看護師だけではなく他職種にも浸透してもらえると助かります
- ・アセスメントやケアの方向性を示されているのでありがたい。離床においては、どのように声をかけるか、などは看護師各々のキャラクターに依るところが大きい。
- ・ガイドラインを整備していただくことで、職場での整備指針になります。
- ・今までにここまで特化されたものはなかったのではないかと思います。とても興味がある分野で、興味があるのに一番悩み、日々自分の行動に後悔と、もっとこうすれば良かったと悩んでいます。私は、自分が行ったことが間違っていないか、患者さんはどう思っているのかと振り返ることができる、大切な本です。
- ・救急×緩和の書籍はいくつもあり、終末期に関する書籍も多数。
- ・新人看護師や、経験値の浅い看護師が、どこから実践したらよいか、看護実践者のレベル別になっていると、より取り掛かりやすいのではないかと思います。
- ・電子書籍版もあるといいと思います
- ・レビューに沿ってまとめられているのでわかりやすいです。
- ・今後もこのようなガイドの充実、特に、具体的な言葉のかけかたの例などが、学生や初学者には重要ですので、ご作成をお願いします。
- ・研究にも役立ちますしわかりやすいです。
- ・実際の症例をもっと載せて欲しいです。家族と直接面会をする機会が少ないので、そのような症例も載せて欲しいです。
- ・詳細に書かれていると思います。参考書として扱うのに役立ちます。ただ、やはり見にくいのが難点です。ビジュアルの問題なのか、内容の問題なのかわかりませんが、学生が見ても、わかりやすく手に取りやすい内容にしていただければ、もっと幅広く使えるのではないかと思います。
- ・職種間での倫理観の違いから、終末期医療に関して議論し合うことが難しいと感じている。そのための方略などがあれば活用したいと思う
- ・「倫理は法律を凌駕しない」と言われていますが、それでも訴えられることがあります。「ガイドラインは所詮ガイドライン。法律ではない」と法曹界の方々にも言われます。我々の実践が法的にも問題ないという保証が欲しいです
- ・いかに看護師が理解していようと行動していようとガイドラインを知らない・守る気がない医師が多い現状だと理想論
- ・色んなパターンの実践的目線での内容が追加されると良いと思う。
- ・コロナ禍で面会制限があったり、家族が来院できない場面が多いと感じます。そのため家族と電話でのやりとりになることが増えました。顔が見えない相手と電話で話すのは難しいと思います。私の職場では、看護師が家族への電話を避ける様子がみられます。そういった介入についても記載があると、病棟スタッフに必要性を伝えやすいと思います。

- ・看護ケアについては、とても充実した内容で、私たちが行っている看護ケアに根拠があると述べることができ、大変勉強になります。反面、コメディカルや多職種と協働するための材料や、行動指針が少ないと感じました。
- ・外来受診から入院病棟まで一連の関わりのように事例で、多職種連携も含めた事例展開して欲しい
- ・もう少し見やすく、わかりやすいフォーマットにして頂けるとありがたいです。
- ・事例や具体があるとわかりやすい
- ・具体的にこれらのガイドラインを適応した際にどうであったか等といった事例があるとわかりやすいと思います。文面で示されたことが具体化されることで、実践する際に何が行いやすく何が困難となるかがより明確になり、使用法のポイントが分かるようになると思いました。

以上